

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00245

研究課題名（和文）高精細複製絵画による屏風絵を中心とする実験的展示照明による基盤的理論の構築

研究課題名（英文）Construction of basic theory through experimental exhibition lighting centered on folding screen paintings using high-definition reproductions of paintings

研究代表者

松嶋 雅人（MATSUSHIMA, MASATO）

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・部長

研究者番号：10321548

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：日本絵画が制作された当時、どのように環境で受容されていたのかを、当時の文献資料等によって検討することで、照明状況の概要を想定することができた。また現状の文化財施設における照明環境とともに、先進的照明機器によって復元された「歴史的な光」と、さらにはかつて使用されていた「燈火光」を高精細複製絵画に対して照らす種々の実験的機会を得ることで、様々な照明状況を把握することができた。そのことによって、絵画の新しい鑑賞機会の手立てを探求するとともに、文化財の展示手法の枠組みの拡張をめざす基盤の一端を構築することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本絵画における展示照明環境については、現状では本来の日本家屋内での照明環境や照明の成分状況は特段の配慮がなされていない。そのため本研究成果によって、近代以前に行われていた照明状況を実践するにあたり、保存的懸念のない「高精細複製絵画」を種々の実証的な実験に用いることにより、文化財本来の鑑賞体験を広く提示することで、当時の鑑賞方法を実感できる環境の方法論を構築できた。合わせてそのことによって、日本絵画史の新たな研究視点をも明示することとなったといえる。

研究成果の概要（英文）：By examining the environment in which Japanese paintings were received at the time of their creation, I was able to envision the outline of the lighting situation by examining documents and other materials from the time. In addition to the current lighting environment in cultural property facilities, I was able to grasp various lighting conditions by obtaining various experimental opportunities to illuminate high-resolution reproductions of paintings with "historical light" restored by advanced lighting equipment, as well as with "light from a lamp" that was once used. By doing so, we were able to explore new ways of viewing the paintings and to establish a foundation for expanding the framework of display methods for cultural properties.

Translated with DeepL.com (free version)

研究分野：日本絵画史

キーワード：日本絵画史 近世絵画 高精細複製絵画 照明環境 展示デザイン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の近代以前に描かれた絵画の多くは、「火」の光である燈光あるいは、自然光の間接光等によって鑑賞者に提示されていた。屋内に設置される絵画は、日本家屋の設計慣行により日中の光(自然光)は間接光となり、絵画とくに、金箔地はその効果を得ることはない。日本絵画は本来、火の光である燈光のもとに置かれることを前提として制作されたといえるのである。しかし現在の美術館等の展示施設においては、絵画が制作された当初の照明状況とは異なる環境で鑑賞者に提示されている。また、近代以降発展してきた日本美術史学において、日本絵画を考察する際には、これまで画面を照らす光の性質に関して、ほとんど関心が払われてこなかったといつてよい。

とくに中世以降に興隆し、近世期にさかんに描かれた金箔を画面に貼付した金地屏風作品は、現代において一般的に用いられる電気照明が照射された場合と、蠟燭や油などの燈火光で照らされた場合、その見え方の様相は全く異なる様相を示す。そのような状況において本申請者は、光の性質が根本的に異なる<歴史的な光>をもって、近代以前の絵画作品を照らした上で画面分析を行わなければ、作風や様式など絵画作品の本質的な理解が得られないと考えた。そして現状の展示施設では、とりわけて屏風や襖絵といった立体的な画面形式の日本絵画が元来、求められている環境をもって展示されていないこと浮き彫りにされたと考えた。

そこで高精細複製絵画を用い、貴重な文化財である原本の絵画作品には決して行えない燈火光による照明実験を行うなど、屏風を中心とした日本絵画の歴史的受容環境を仮説的に復元した上で、先進的な照明機器を用いて実験を行い、実際に視覚的に絵画の歴史的環境を再現して解析を試みようとするに至った。あわせて本研究によって、現代の各施設における様々な展示環境を集約した上で、保存科学的な安全性を確保しながら、歴史的な受容環境を復元的に考察し、多元的な考察によって、日本絵画の新たな鑑賞と研究の方法論を提示したいと考えるに至った。

2. 研究の目的

本研究は屏風を中心とした日本絵画を照らす照明の状況を大きな指標と捉え、まず<現代の展示空間における光>が展示施設において、どのような状況にあるのかを把握する。そして日本絵画が制作された当時、いかなる環境で受容されていたのかを検討しながら、現状の照明環境とともに、先進的照明機器によって復元された<歴史的な光>と、さらにかつて使用されていた<燈火光>を高精細複製絵画に対して照らすことで、様々な照明状況を把握し、絵画の鑑賞並びに、文化財の展示手法の枠組みの拡張を目論んだものである。

3. 研究の方法

本研究は 現代の展示施設における屏風を中心とした日本絵画の展示環境の事例を調査、検討することで、その問題点を見出しつつ、屏風絵が当初設置された場所を、歴史的史料にみられる事例から想定し、保存科学的な安全性を担保した先進的照明機器によって、歴史的受容環境を復元する。その上で高精細複製絵画に向けて各種照明実験を実施し、照明状況の様相を分析する。それらのデータ資料により、展示環境の可否を検討した結果を踏まえて、実際に絵画資料の展示に汎用的に活用できる基盤的な照明理論を構築する。

4. 研究成果

本研究課題は第一段階として、国内外の展示施設における屏風絵を中心とした日本絵画の展示環境を先進的照明方法、手法の調査を行った。とくに展示室のケース内展示ではなく、文化財が露出展示されている事例を可能な限り調査し、屏風絵を露出展示している施設は、ケース内展示となる展示施設とは全く様相の異なる照明環境であるため、その調査は必須といえ、その事例研究にあわせて、照明に関わる絵画に対する歴史的考察の方法、照明機器の保存科学的な問題点も浮き彫りにしようと考えた。このような研究方針のもと、下記の研究成果を得た。

・高精細複製絵画に対して、各種の照明実験を行った。

2020年10月27日(火)～12月6日(日)に東京国立博物館において開催された「なりきり日本美術館リターンズ」で、尾形光琳筆「風雷神神図屏風」高精細複製絵画についての実験的照明を行い、その画面状況を観察し、その効果の検証を行った。

2021年9月4日(土)～11月28日(日)に東京国立博物館において開催された「春夏秋冬/フォーシーズンズ 乃木坂46」で、狩野長信筆「花下遊楽図屏風」や上村松園筆「焰」など高精細複製絵画、複製作品計7件についての実験的照明を行い、その画面状況を観察し、その効果の検証を行った。

2022年10月18日(火)～2022年12月11日(日)に東京国立博物館において開催された東京国立博物館創立150年記念 特別企画「未来の博物館」において4つの国宝「花下遊楽図屏風」「納涼図屏風」「観楓図屏風」「松林図屏風」の高精細複製品へプロジェクションマッピングを行い、その画面状況を観察し、その効果の検証を行った。

2023年中に東京国立博物館本館特別3室にて実験結果を活かした掛軸、屏風作品の高精細複製絵画の展示を実施した。あわせて国宝「松林図屏風」高精細複製作品を東京国立博物館敷地内九条館にて日中間10時間程度の露出展示を行い、タイムプラス動画撮影を実施して、屏風絵の構図的意図を検証することができた。

・「横尾忠則 寒山百得」展(東京国立博物館・2023年9月～12月)ならびに特別展「本阿弥光悦の大世界」(東京国立博物館・2024年1月～3月)において、油彩画の露出展示における照明効果や大画面の扁額について、照明の視覚的效果を検証して、その造形的特色を考証することができた。

・国内の展示施設を調査し、照明環境の比較材料となる次の機関において、資料の収集を行った。国立新美術館(東京都) 人と防災未来センター(神戸市) 富山県美術館、金沢21世紀美術館(金沢市) 足利市立美術館(足利市) 東京都現代美術館(東京都) 横尾忠則現代美術館(神戸市) 京都市京セラ美術館・旧三井家下鴨別邸・京都国立近代美術館・橋本関雪記念館(京都市) 比叡山延暦寺諸堂(大津市) 松濤美術館(東京都) 石川県立美術館・石川近代文学館・泉鏡花記念館・金沢21世紀美術館(金沢市) 京都国立博物館(京都市) 赤間神宮宝物館(下関市) 下関市立美術館(下関市) 京都文化博物館(京都市) 首里城公園内正殿復元エリア(那覇市)の各展示施設における展示室内の照明環境状況を視察した。

・文献資料と近世以前の絵画資料に基づき、照明環境の復元的考察を行った。主に東京国立博物館蔵の室内で行灯等を描写した屏風作品、掛幅装作品、浮世絵版画、肉筆浮世絵版画を取り上げて、その設置場所、光源の高さなどについての情報集約を行った。

以上の施設調査、複製絵画作品を用いた実験、文献・絵画資料の情報集約によって、歴史的な光を用いた日本絵画の新しい展示手法の枠組みの拡張の一端を示すことができたと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松嶋雅人	4. 巻 1511
2. 論文標題 長谷川等伯筆「波濤図」をめぐる諸問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 國華	6. 最初と最後の頁 43,50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 松嶋雅人	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京国立博物館、文化財活用センター、ソニー・ミュージックエンタテインメント	5. 総ページ数 176
3. 書名 春夏秋冬 乃木坂46	

〔産業財産権〕

〔その他〕

特別企画「未来の博物館」 https://www.tnm.jp/150th/project/202210/exhibition_mirainohakubutsukan.html 春夏秋冬 / フォーシーズンズ 乃木坂46 https://cpcp.nich.go.jp/modules/r_exhibition/index.php?controller=dtl&id=26 親と子のギャラリー トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ https://cpcp.nich.go.jp/modules/r_free_page/index.php?id=68

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------